

## 信仰を保つ

マリノ E. デハクト Jr.

世の終わりの話は誰にとっても恐ろしいと思います。数年前フィリピンで、ある宗教の人達が聖書の中の終末的なイメージがある箇所を読んで他の人たちに聞かせたところ、それを聞いて恐ろしくなってしまった人たちがいました。どうすればよいのかと尋ねると、聖書を読んだその人たちは「私たちの宗教に入りなさい」という返事を必ずしました。さもなければ救われないと彼らは言うのでした。その時に引っ張られたカトリック信者がかなりいたとのことでした。おそらくその人たちへの信仰教育が足りなかった為に引っ張られてしまったでしょう。とにかく私たちも終末論的な話を聞かせる時には、イエス様に基づいている信仰を掲げましょう。マルコの福音書の第十三章 24 - 32 節は世の終わりのイメージです。しかしそれは世の終わりが近づいていることの意味ではありません。恐ろしい場面が書かれているので、福音という良い知らせにならないと思うかもしれません。しかしイエス様が再び来られる前にはこのような恐ろしいことが起こるはずでありません。世界の歴史を見ると聖書に書かれていることと全く同じではないですが、戦争、天災、人間の業による災害などの恐ろしい出来事がたびたび起こっています。私たちはこの世にいる間、このような恐ろしい出来事を避けて通ることはできません。しかしながらイエス様が再びいらっしゃる時、全てのものは完成されるという約束があるので、心配しなくても良いのです。ただしその日が来るまで、私たちはイエス様に基づいた信仰を守らなければなりません。イエス様に会う時にふさわしい者となるために善悪の区別をしておかなくてはなりません。その日がいつ来るのか私たちには分からないのですが、イエス様のみ言葉は必ず実現するので絶えず主の教えに従わなければなりません。イエス様に従うのは確かに簡単なことではありません。ある時はキリスト者であることによって私たちは仲間から外れてしまうかもしれません。あるいは人間関係や、家庭の問題、病気などの苦しさによって信仰が揺らぐこともあります。しかしこのような苦しさは一時的なものなので、イエス様のみ言葉に信頼して忍耐を持ち続けることが大事です。イエス様もこの世にいた時、私たちと同じように大変な状況の中で生きていらっしゃいました。ですからわたしたちも自分に与えられた十字架を最後まで担うことができれば、主の栄光にあずかることができます。そうすると終末の話聞いても恐れる必要はないでしょう。そして主が再び来られるということはこの不完全な世が新しくなるためですから、喜びの約束だと理解いたしましょう。